

## 大津小便り

平成二十七年  
N〇六  
七月十六日(木)  
文責 吉良智恵美

かけがえのない命・・校内人権月間

「夢を持ち、笑顔と自信にあふれる子どものが育成」は、本校の教育目標です。去る九日の熊日に、岩手県の中学生男子生徒の自死の記事が掲載されました。これによりますと、男子生徒は以前、学級担任に提出する「生活ノート」に、同級生からの暴行や自殺を示唆する内容を記していましたといふのです。「死にたい」という記述も、四月下旬にあつたそうです。翌日の新聞では、六月に学校が実施したアンケートを元に予定していいた本人への面談がなされていかつたことでも分かりました。さらにショックだったのは、男子生徒が、実際に嫌がらせや暴力を受けている現場を見ていた保護者や生徒が、複数いていたということです。七月五日に、列車に身を投じた男子生徒。四月以来ずっと助けを求める続け、また、気づき助けられる人やチャンスがたくさんあつたのに、なぜ、彼を救えなかつたのでしょうか。担任の教師としての人権感覚を求める一方で、担任一人の課題では済まない根本的な問題も含んでいます。本校には、現在六百二十七名の児童があります。六百二十七通りの毎日があることになります。どんなことを感じ、どんなことを想いながら毎日を過ごしているのか、全てを理解することは出来ません。しかし、その「笑顔」を無くしてしまふいつもと違う何かが起こった時に、少しでも早く誰かが気づき、声をあげられる教師集団でないと強く思います。今回の悲劇を対岸の火事とせず、再度、本校の教職員一人一人の教師としての人権感覚をもたらすために、日に何度も、「挨拶+1」う子どもたちに、声掛けを意識してやつてきます。「見守つてのメッセージにもしたいのです。

授業参観、お世話になりました。

十四日の授業参観は、お世話になりました。四月からの成長を感じてもらえたでしようか?生活数理はどうでしたか?授業参観の前には、PTAによるプール開放に向け、救急救命法の講習会を実施しました。六十名以上の皆さんが真剣に心肺蘇生法を研修されました。大津小の子どもたちの命を守るために、よろしくお願ひします。いよいよ夏休みです。有意義な休みしてください。





「あ、これって上田先生だ。」  
○校長室に来た5年生数名が、校長室の写真を見て声を上げました。理科や科学クラブの時間に、支援ボランティアとして来て頂いている上田先生は、実は、本校の元校長先生です。私が若い頃、上田先生ご夫婦にお世話になり、今でも親しくさせていただいています。理科の先生として、豊かな経験をお持ちですので、支援をお願いしたところ快く引き受けてくださいました。有り難いことです。  
○上田先生に加え林先生も、朝の学習支援に引き続き昼まで、週に1日ほど、算数の授業の支援をしていただいています。朝学習に放課後学習、読み聞かせや環境整備、たくさんの皆様のご協力に支えられています。心より感謝します。



林先生と子どもたち



由松先生とNIEの学習

「わつ、もう夏休みだ。」そんな声が聞こえる職員室です。次々に行事が続き気付けば来週から夏休み。七月八日（水）の教育事務所による学校訪問は、四月以来の教育成果を検証する場になりました。事務所からは、学力向上の成果や「言語活動」を位置づけた学習展開、特に子どもたちの素直に頑張る姿などを、大津小学校の「よさ」として評価していただきました。「生活数理」の研究開発は、他教科の基礎基本の定着が基盤です。数名の教員がすばらしいだけでは、全校児童の力と名前ません。全職員が指導法を共有し、全児童の「よさ」を引き上げたいと思ひます。

学校訪問・・子どもの姿が光りました。